◉ 連合会・労協Gだより

今年度の6～8月自治体集中行動の果す役割が重いことは、誰れしも自覚しているところだが、全国が一せいに飛び出すことになっていない。

昨年の旺盛なとりくみに比べ、この時点でのきわだったちがいは、昨年は、まず、自治体に出掛けて行って、労協、高齢協、映画を話し、自治体のゴールド・プランなどの施策を聞くことで、労協への関心と期待の大きさを知り確信となっていったのだが、今年は、そうはいかない。

当然、「その後、どうなりましたか」「具体的に何を、どうしたいのですか」と言われることがわかっている。事前の準備が必要なこと、幹部だけの行動ではいけないことが自覚されていて、中味の濃い仕込みが必要で、それにふさわしいとりくみがされていることだった。

研究所総会、シコパ会議報告集会、ワーコレ研究交流集会（6／25―26）、協同集会準備会議（7／2）、高齢者協同組合推進委員会（7／14）、女性委員会（7／18）、トップセミナー（7／24―26）、雇用シンポ第四弾中四国集会（7／30）、労働大臣（7／11）、労働政務次官（7／20）に面会、要請、などが、その役割を充分に発揮している。

6～8月は、「草刈り」「野丁場」現場をもつ事業団にとっては、とりわけ忙しく、暑さはきびしい、今年の猛暑は半端でない。

常任理事会は、今年は、まず仕事をこなし、夏休みもこなし英気を養い、盆明けから9月にかけて深く広い「6～8行動」を展開しようということにした。早い秋となるようがんばろう。

中田宗一郎（労協連合会・専務理事）

◉ センター事業団だより

センター事業団の一ケ月のサイクルは初旬に事業所長会議、中旬に常務理事会、下旬にブロック本部長会議及び各ブロック毎の所長会議という具合になっている。これに合わせて各ブロック・事業所が全組合員会議や事業所委員会、ブロック会議及びその他の催しをスケジュール化している。

7月5日行った第1回事業所長会議では、辞令の交付があり、新しく所長、副所長となった組合員が緊張の面持ちで討論に参加した。当面する課題が鮮明になっている事業所、そうでない事業所様々あるのは相変わらずである。本部を含め決定された新しい体制で頑張って行きたい。

7月15日に第1回理事会を行い、総代会以後の活動と今期の機構と人事についての承認、特に「第2次中期計画」作成のための委員会を設置した。事業面では病院メンテナンス事業を環境総合事業として位置づけ直すことを決定した。病院環境の安全・安心を目指す中で院内感染の問題を克服する研究が病体生理研究所との間で本格的に開始された。さらに医療廃棄物の収集に関しても効率的な計画が首都圏のブロック・事業所で組まれ始めている。今期事業拡大の最重点と位置づけ取り組む方針である。

本部事務局は総代会後の後始末を終え、日常の活動のサイクルが漸く戻ってきた。自立積立金、労働配当、出資配当の支給、税務申告、退職者への返還手続き、終わったかと思うと一時金の支給と落ち着く暇のない6月7日であった。十数人のスタッフで二千人の組合員を対象に良くやっていると思う。勿論不十分なところも多くあり、事業所から批判もある。「第2次中期計画」作成の議論の中で充実をさせてゆく必要があると考える。

坂林哲雄（労協センター事業団・事務局長）